（第１４回都市環境デザインフォーラム・関西 資料）

第１４回　都市環境デザインフォーラム・関西
『都市のまちづくり・その担い手』

アンケート調査　結果

２００５年１２月１３日

都市環境デザイン会議・関西ブロック

アンケート調査の実施状況

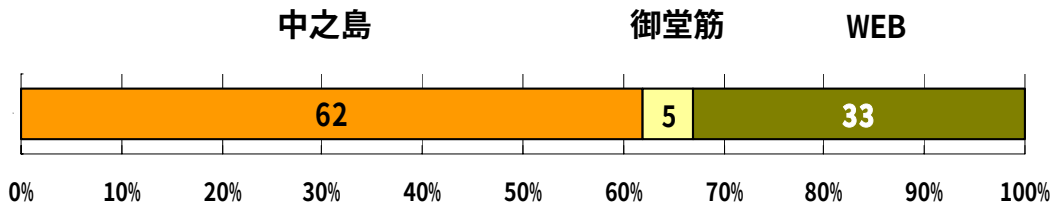
１．アンケート調査の実施

・　「中之島」と「御堂筋」でパネル展示会を開催し、来場者にアンケート調査を実施した。またＷＥＢにおいても「誌上パネル展」を行い、アンケート調査を実施した。

- ● 中之島展：17 年 10 月 24 日～26 日　中之島ローズポート(中之島公園)
- ● 御堂筋展：17 年 11 月 7 日～11 日　御堂筋 i-point 銀泉備後町ビル
- ● ＷＥＢ　：都市環境デザイン会議関西ブロックホームページ

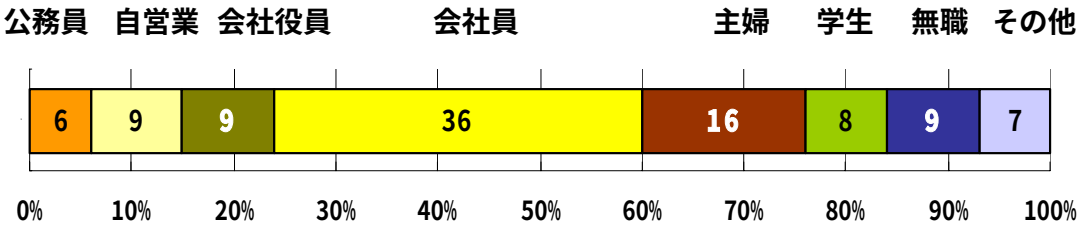
２．回答数

・　中之島９３票、御堂筋７票、ＷＥＢ４９票で合計１４９票



３．回答者の職業

・　回答者は会社員、主婦が比較的多かった。



回答者の職業（会場別）　　単位：票数

	合計	中之島	御堂筋	WEB
公務員	9	2	0	7
自営業	14	8	0	6
会社役員	14	5	2	7
会社員	54	31	3	20
主婦	24	24	0	0
学生	11	8	0	3
無職	13	12	1	0
その他	10	3	1	6
無回答	0	0	0	0
合　計	149	93	7	49

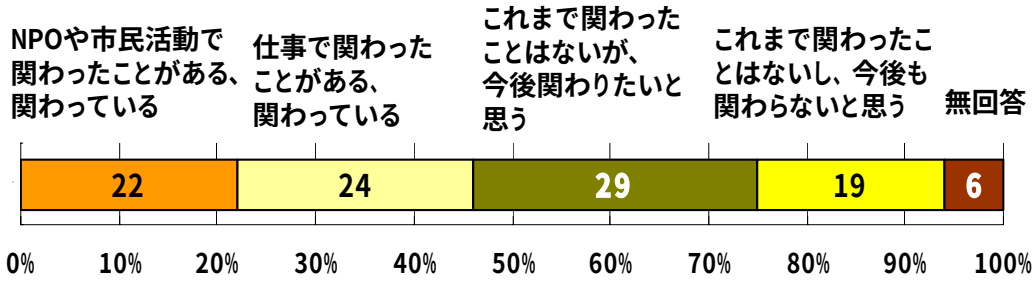
「まちづくり」の経験

＜ 問 ＞

あなたはまちづくりに関わったことがありますか。

＜回 答＞

・　まちづくりにＮＰＯや市民活動」又は「仕事」で関わったことのある人が４６％、「関わったことがない」人は４８％ 。



「まちづくり」の経験（会場別）　　単位：票数

	合計	中之島	御堂筋	WEB
ＮＰＯや市民活動で関わったことがある、関わっている	33	10	3	20
仕事で関わったことがある、関わっている	36	14	2	20
これまで関わったことはないが、今後関わりたいと思う	45	34	2	9
これまで関わったことはないし、今後も関わらないと思う	29	29	0	0
無回答.	10	10	0	0
合　計	153	97	7	49

「まちづくり」の経験（職業別）　　単位：票数

	合計	公務員	自営業	会社役員	会社員	主婦	学生	無職	その他
ＮＰＯや市民活動で関わったことがある、関わっている	33	3	6	4	12	1	3	0	4
仕事で関わったことがある、関わっている	36	4	4	8	16	0	1	1	2
これまで関わったことはないが、今後関わりたいと思う	45	2	3	1	19	7	5	5	3
これまで関わったことはないし、今後も関わらないと思う	29	1	0	2	8	11	2	5	0
無回答	10	0	1	0	1	5	0	2	1
合　計	153	10	14	15	56	24	11	13	10

都市でのまちづくりの進め方

＜問＞

あなたが共感できる、『都心でのまちづくりの進め方』を、以下から１つ選んでください。

○ 市が中心に進めて、市民や企業をリードする（行政主導型）

○ 企業が市民と協力して進める。市は支援する。（企業主導型）

○ ＮＰＯなど市民団体等が、市や企業と協力して進める。（市民活動型）

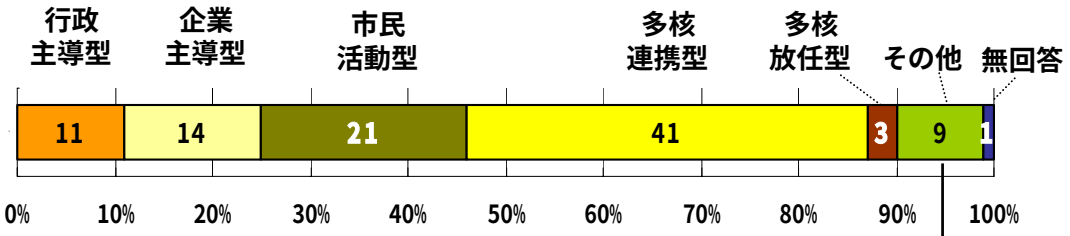
○ 市、企業、市民、ＮＰＯなどが話し合いながら一緒に進める。（多核連携型）

○ それぞれが自主的に活動を進める。全体の調整、コントロールはあえておこなわない。（多核放任型）

○ その他

＜回答＞

- まちづくりの進め方は「行政主導型」とするのは１１％にすぎず、市民、企業、ＮＰＯなどが主体となって進めることが大勢である。
- その組織形態は多様であるが、「多核連携型」を選択する人が多い。



「その他」の意見

企業主導型と市民活動型両方
多核連携型と行政主導型
企業主導型と市民活動型両方
企業主導型と市民活動型両方
行政主導型と市民活動型と多核連携型
どこが主体でもよいが市が加わることは絶対不可。
課題発見ときっかけづくりは行政が担うが、リーダーとなって頑張れる人がいるか否かでやり方を変える。
市民と企業が自主的に活動を進める。市は全体の調整と支援。
多核連携型だが、市がコーディネートを行う。
市、企業、市民、NPO などが話し合いながら、それぞれが自主的に活動を進める。
どれとも言えない。
真面目に仕事をする行政の存在がない。大阪市民には選択肢がない。
市が作成した「たたき台」を基に、多核連携型で進める。
企業や市民が自由にあるいは連携して活動し、市が支援、協働する。

都心でのまちづくりの進め方（会場別）　　**単位：票数**

	合計	中之島	御堂筋	WEB
行政主導型	16	11	0	5
企業主導型	20	15	1	4
市民活動型	31	24	1	6
多核連携型	61	33	4	24
多核放任型	5	3	0	2
その他	14	5	1	8
無回答	2	2	0	0
合　計	149	93	7	49

都心でのまちづくりの進め方（職業別）　　**単位：票数**

	合計	公務員	自営業	会社役員	会社員	主婦	学生	無職	その他
行政主導型	16	1	2	2	6	1	0	2	2
企業主導型	20	0	1	2	9	3	2	2	1
市民活動型	31	1	3	3	7	8	3	4	2
多核連携型	61	7	6	4	25	8	4	4	3
多核放任型	5	0	0	2	1	0	1	0	1
その他	14	0	1	1	6	3	1	1	1
無回答	2	0	1	0	0	1	0	0	0
合　計	149	9	14	14	54	24	11	13	10

都心でのまちづくりの進め方（まちづくり経験別）　　**単位：票数**

	合計	NPO･市民活動経験者	仕事経験者	未経験今後関わりたい	未経験、今後も関わらない	無回答
行政主導型	16	3	2	6	4	1
企業主導型	20	0	5	9	4	2
市民活動型	31	8	3	9	8	3
多核連携型	61	17	15	18	10	1
多核放任型	5	1	3	1	0	0
その他	14	4	4	2	2	2
無回答	2	0	0	0	1	1
合　計	149	33	32	45	29	10

「都心でのまちづくりの進め方」の理由

＜問＞

前問（都心でのまちづくりの進め方）について望ましいと思う理由をお聞かせください。

＜回 答＞

行政主導型の意見

①行政の性格･役割	・やはりこういう事は行政が主導しないと進まない。なぜなら企業ならどうしても利益の事を主に考えるし、また、行政なら非営利だからいける。 ・各論はそれぞれの立場が主導権を握り進めるべきであり、その方が効率的で且ついいまちづくりができると思っていますが、総論については、やはり行政が先導するべきだと思っています。「市民参加のまちづくり」という言葉の傘に、行政には逃げて欲しくない。そういう願いも込められていますし、日本のような市民社会が未熟な国においては、公共公益の視点から全体を見ることができ、リーダーシップを取れる「人」が必要です。現段階では行政が担うべきで、それが企業人、市民が担っても構わないと思います。
②行政先導 ＋市民・企業	・市が色々と市民に指導してもらい、それを私達が実行していく、隅々まで連絡する。 ・現在の企業や市民の意識はかならずしも、まちづくりに向いていないし、それが自分たちがするものという認識が少ないと思います。まず、行政が主導し、（それは、市民・企業の意識をまちづくりに向けるものであるべきですが）市民・企業の半自発的な動きを促す必要があると思います。将来的には、市・企業・NPO などが話し合いながら、一緒に進める多核連携型が望ましいと思います。
③専門家の活用	・市民・企業の声は聞くが、あくまで参考意見でよい。むしろ高度な内外のプロによるモデルのコンペションをやるべきです。自治体、行政が確たる長期的計画と信念が必要。いわゆる 100 年の計で市民に問うものでなくてはならないと思います。 ・この場合、2-3 年で担当者が変わってしまう行政担当者ではなく、きっちり職能としてのプランナーがいて、住民意向および都市のあるべき決定された方針から客観的かつ透明性のある判断で、決定権をプランナーが主導する方法がとれるという前提が必要。
④公共施設の維持管理	・あまり中之島に来ることがありませんが、今日来て、また来たいと思いました。でもブルーテントが気になり、なんとかして欲しく思いました。 ・その前にひとつ。青テントがどうにもならない自治体では何も出来ないと思います。街を愛する気持ちが感じられない。中之島や川筋を外来者に案内したいが恥ずかしくて情けなくて市民として、下を向いて歩いてしまいます。
⑤その他	・特になし。 ・せっかく税金をはらっているのだから、しゃきっとしてほしい。

企業主導型の意見

①企業(地域)の ニーズ･知恵の反映	・まちの機能が常に更新されるには企業の力が重要だと思う。市民だけだと夢で終わりそう。市が中心だとひとりよがりになる気がする。 ・御堂筋はビジネス街であるという事実は今後も変わらないと思うので、企業が主導することでみんなが働きたいと思うようになれば、ビジネスの中心地とし

	てこれからも発展すると思うから。 ・むずかしい事はわかりませんが、市の施設等赤字が多いじゃありませんか。市民の意見等をまじえて市民が多く来られ、また反映していく様に夢と実益を兼ねて進んではいかがですか。 ・色々な発想が期待できる。 ・実感として「まち」を感じることのできる者が主体となるべき。本来行政の強力なイニシアチブ、ビジョンも重要だとは思うが、必ずしもそれが正解ではないので。 ・民がお金を出すきっかけと、やる気と意欲が必要。官のお金で紐付きと成れば旨くゆくものにも滞りが出来る。規制より調和を大事にして、より多核連携型に近ずく進め方に発展がある。企業主導型でなければ、社会の変化に順応できない。決断力が乏しく、建前論に左右され、緊急避難も出来ない。お金を出し、口を出さない官が、のぞましい。
②企業の実行力･民活	・企業による社会貢献が不可欠と思う。 ・民間活力を生かした都市再生が叫ばれて早数年が過ぎ、実際に東京都心などでは民間主導の大規模開発による都心再生が進んできている。特に都心にあっては、夜間人口よりも昼間人口（すなわち企業の立地による従業員数の流入）が上回っている現状、官の財源不足が著しい状況などからみて、企業が中核となったまちづくりを進めるべきと考える。その取り組みに、地域住民や関連する市民団体が参画し、そして、行政が法規制などの面で支援する。官側に財政支援を求めるのは難しい。やはり、今後は企業の地域貢献・社会貢献（CSR）の精神をフルに活用したいところである。ただし、この話も都心、それも大都市圏に限ってのことである。地方や農村部については、また別の話である。 ・多核連携型は理想だが、なかなか話が進まないのではないか。都市の場合は企業が多いので、企業と市民が協力して進めるのがいちばん現実的だと思うから。
③行政主導と企業市民主導の問題点	・行政主導型は、予算ありきの整備が多く、適材適所の整備でなくなる整備事例が多く見受けられる。一方、企業市民主導の場合、現実のことばかりで、将来あるべき姿を打ち出しにくい点があるのと、声の大きい方へ流れやすい。

市民活動型の意見

①市民のニーズ･知恵の反映	・参加する事によって多くの事を知る。 ・市民も自主的に参加しやすいイベントを考えて下さい。 ・やっぱり市民の意見が最大限反映されるシステムでないと意味がないと思うので。市主導はそこらへん全然わかってないからもううんざり。 ・行政主導より個人の意思が反映されると思う。 ・みんなで創造するまちづくりになると思う。 ・生活していくのは市民なので市民中心に考えるのは良いと思う。 ・市が中心では、細かいこと、したいことができないのではないかと思う。 ・市民が主体的に！ ・普通のことだから。 ・市民のニーズが反映される。 ・市民の中からポツポツと出てくるムーブメントの芽があるように感じます。そういったときに、行政、企業が、市民の様々なアイデアに対するバックアップとなるのが理想だと思います。 ・実際にその街に住む人達を中心に街づくりは進められるべきである。又、真の街づくりを進めるには、行政や企業の協力を得ないと進められない。
②ＮＰＯの性格･役割	・利益優先にならない様に。 ・誰のためのまちづくりであるのか、発信所在を明らかにすること。私企業が投

	資価値を認め、行政がいかに制度を整備できるか、NPO など市民団体自身がまちづくりの魅力をアピールできる力を養うことが、望ましいと考えたため。 ・対策や意見は地域住民が持っている場合も多いが、その掘り起しには行政ではなく NPO が有効だと感じるため。

多核連携型の意見

①多様な主体と 多様な知恵からの創発	・どちらか片一方だけでは大きく変わらない気がする。 ・いろんな方向から意見を出し合った方がよいと思えるので。 ・それぞれの組織の長所、短所を補完するため。 ・多数の立場の方が幸せに感じることができるまちが理想であると思うから。 ・それぞれが納得して行えば、よりよいまちづくりが行えるため。 ・各々のノウハウが活かされるから。 ・それぞれの長所を生かし、総合的にまちづくりを進めて行く必要があると思う。 ・統一されたコンセプトの下で街づくりが行われそう。 ・一部の人や一面からの見方だけではおもしろくない。多様な人､多様な試み。 ・色々な角度より、色々な意見が出るのがよい。またメリット、デメリット etc 検討される事がよい。 ・子供が楽しめるイベントが欲しい。 ・1.2.3 のようにどこかを主体にすると行政の都合や企業､市民のエゴに合わせたまちづくりになってしまうと思うので、消去法で。 ・リスク分散。 ・全体のマスタープランがあればあえて一緒に進める必要性はないと思うが、ない場合はそれぞれの思いが干渉しあい、バランスの取れない街になる可能性があるから。 ・ネットワークが有効な時代だと思う。連携を進める上でも「やりたい」思いが強く、共感しあえることが必要。広い意味での CB 発想が求められている。リードするのは、しっかりとしたミッション。同時に楽しくやること。 ・多様な主体には多様な考え方がある。また、共に携わることで、主体それぞれが、それぞれの責任を感じることができると考えるから。 ・まちづくりは、連携しつつも、役割分担があると思います。予定調和が難しい中、課題と解決の方途については、共有しながら、解決には、それぞれの特性を活かすことが基本ではないでしょうか。場合によっては、専門性や法制度の立案、運用の権限をもつ行政主導型も必要ですし、現実の地域実態に照らし合わせ､当事者でもある企業や市民活動等が進めることが必要な場合もあります。特に、都心で展開される様々な営みを考えた場合、道路や公園等の自由使用と、施設管理者や交通管理者である行政の管理瑕疵の法問題については、社会実験の次を考える段階に至っていますが、明確な答が見えていないように感じていますので。 ・実際に住んでいる人、利用する人の意見を聞くのは当然では？ ・市、企業、市民(住民)、ＮＰＯなど、人はその所属、立場、利害都合によって、その視点、認識が異なる。現在日本で混乱しているのは社会活動において、何が正義か、何が正しいのか、ということが各立場によって共有されていないことも、その原因かと思われる。それ、つまり、何が正しいかということは、クニの目標、くにの像を求めることでもあるが、それは戦後６０年経った、今現在、やっと可能な時期に来たということではないかと。そして、そのクニの目標像はクニに所属する全員の問題であり、それを求めるプロセスから共有すべきである。その意。 ・それぞれに役割と立場があり、どれも大切だと思うから。地域によって、市が

	主導しやすいところ、企業が主導しやすいところが違うと思うが、一緒にすすめられたら理想だと思う。 ・まちは、そこで住み、働き、遊ぶ、すべての人のものだと思うから。 ・それぞれ単独での取り組みでは限界がある。 都心では多様な主体が関わっており、そうした主体が連携してまちづくりに取り組んでいく必要がある。 ・連携することで色々な声を聴き､まちづくりを進めることが必要と思われる。 ・それぞれの立場にしかできないことがあり、それを融合されることが必要だと思うから。 ・私は、まちづくり・都市計画コンサルタントとして、行政の助成を得ている地区のまちづくりに係わることが大半です。その地区に直接関係する人（地の人）が、主体となって、我々コンサルや企業等の外部スタッフ（風の人）が活動をサポートするような形でまちづくりを進めたいなぁと考えています。おんぶにだっこで、行政や企業にまちづくりを進めて貰うと言うのでは、長い目で見て決して良い町にはならない。地元にいる人が自らがその町を良くするという気持ちを持たなければ、ハコを作っただけで魂の入らないものになると思います。そういう意味では、多核連携で地元主体型みたいなまちづくりが理想ではないかと思っています。 ・市民、企業、市等の意見の集約、現在・将来にわたりなにが求められているかをよく話しあって、NPO の力も借りながら、もっとも多くのひとたちが望んでいるものを、まちづくりに反映させることが大切である。
②組織のあり方	・市、企業、市民、ＮＰＯといったくくりは横並びでないと、機能しない、いいものができない、と思います。「一緒に」というのが難しいですが、具体的な局面では、中心となるセクターが他のセクターの支援協力を得て、ということになると思います。これが「多核放任型」と違うのは、全体のコントロールは広く住民の反応や意向・好感度のサーベイにより評価を得ながら進める点にあります。 ・しかし、リーダー＆決定権をどこかに決める。 ・誰かがリーダーシップをとるべきだが、参加する側は幅広くあってほしいと思う。 ・多様な担い手が参加することが大切。 「話し合いながら一緒に」というところをいかにうまく進めるかがポイント。 連携に専念する調整役の役割、運営が重要。 ・プラットホームが必要、しかしまとめることはない。 ・市民の意見を企業やＮＰＯが取りまとめ、都市の景観や構造上の問題を市とともに話し合い、財政上の問題も企業と話し合って最高のまちづくりを推進して欲しいから。 ・まちづくりは、連携しつつも、役割分担があると思います。 ・ステークホルダーをどのように設定するか？それぞれの「まちづくり」に関係する人々が何らかのプロセスに参画でき、また、その進捗状況やアウトカムがわかる進め方が求められていると思う。もう言葉だけの「まちづくり」は要らない！ ・設問を見て、私自身は「市民活動型を発展させたものが多核連携型である」という視点に立って活動しているのではと思いました。一番の理想型ではないかと思っています。 ・それぞれの役割、ノウハウ、資源をもちあって、総合力で進めていくことで効果が期待できる、という理念に基づいて結束する。対立するところは、敵対的に調和する、という姿勢で進めることを申し合わせる（なかよしクラブではない）。ものによってイニシアチブ（主体性、責任団体）の濃淡は出ることが前提。

	・多核連携型とは、それぞれが責任の所在をはっきりさせながら、協力していく事？マイナス面は調整に時間がかかり過ぎる事だと思うが、いい結果が得られると思いたい。 ・行政主導型には、これまでの実績からして、新しい発想やすばやい展開が見られるという期待が持てない。企業主導型には希望が持てるが、メセナ事業などに関わった経験から、企業の実績や経営方針の変更などによる影響が想定され、やはり企業が本業以外の活動に長期的に責任を持つのは限界もあると思う。NPOなどの活動については、日本では資金力の裏付けが乏しく、ボランティア活動で企業や行政と渡り合い、主導的役割を果たそうというのは個人の負担が大き過ぎると思われる。それぞれが求め信じる方向で活動しつつ、情報交換を密に連携し、共同事業や協力、支援などで相乗効果を期待するのが現実的と思う。 ・どのような活動であれ、モチベーションと広義な意味での教養のある中心人物が必要で、それが市、企業、市民、NPOなどどのようは組織に存在しうるかは場合による。よういった意味で、基本的には多核連携型かと思う。 ・利便性の高い都心だからこそ、誰もがまちづくりに参加しやすく、それぞれの立場で可能な範囲で、まちづくりを進めていけばよいと考えます。各主体のまちづくりの取り組み方は業務としては、貢献か、ボランティアか、色々ありますが、どれか一つの主体ばかりに負荷を負わすのではなく、また、ある主体だけが手抜きをするのではなく、みんなでバランスよく取り組んでいくやり方を模索して行ったらよいと思います。 ・ただしそのためには、求心力のある指導者がいないとうまくいかない。行政主導型・企業主導型・市民活動型であっても、要は「情熱のある指導者」がいればよいと思う。 ・それぞれの連携が難しいが、それぞれの主体性が育まれ、実行力が伴う可能性が高いから。
③行政の役割	・行政は丸なげしてはいけない。 ・本来、そこに住んで、ビジネスをして、遊んでいる市民、企業を中心に進められるべきですが（視点）、全体の街づくりのところは行政と連携していく必要がある。 ・行政による調整役は必要で、会社や店舗の経営者やワーカーが望む形態（まちの姿）がある。それを市民やＮＰＯが望むまちの環境と融和させ、理想的な都心のふるさと〔街・町（ｓｔｒｅｅｔ、ｃｉｔｙ、ｔｏｗｎ）〕を形づくっていく必要がある。
④その他	・大阪市、市民団体などの多核連携型の都心のまちづくりを進めるべきです。未来の大阪の都心部のあり方について意見を出したいと思います。大阪平野は関東平野に比べ広くなく、大阪市内の環状線の周りから外側にかけて超過密で老朽化した低層の家、デザインの悪い雑居ビル、商店街から形成された大阪市が広がっています。ベイエリアには工場跡が広がり大阪市全体における土地の有効利用が非常に悪い。大阪のこの問題をどうするか！時間をかけて解決して行く。100年計画を立てる。大阪都心部、梅田、中之島、本町、淀屋橋地区における高層化を促進することにより土地の有効利用を最大限に高める。10階建てのビルよりも20～50階のビルをたてることにより緑の空間を増やす、都心部を広げるのではなく高層化して集中させる。都心部を低層に使うことになると、都心部が広がりすぎ無駄な地下鉄、交通網の整備が必要になり赤字の拡大。都心部が高層化＆コンパクトな都心部で移動が徒歩可能、移動時間が短くてすむ。大阪の都心部は御堂筋を中心としたところ梅田、中之島、淀屋橋、本町、心斎橋、難波ではないでしょうか。都心部の高層化とコンパクトで効率の良い未来型の都心部が必要です。環状線内、外側の大掛かりな再開発＞良質な住宅街（緑豊かな）、ベイエリアは想像を絶するくらいに空き地、工場跡が広がっているエ

	リアを欧米型の芝生が豊富にある良質な住宅地に変えていく。大阪は土地がないといわれますが、これだけ多くの土地が有効に使用されていないのです！欧米の大都市のように素晴らしい住宅街が中心～郊外に広がっていて、世界の裕福な人達が美しい住宅街に多く住んでいる現状です。大阪は都心部を高層化して（コンパクト）環状線の外側～ベイエリアを世界中の裕福な人達が住めるくらいのすばらしい緑豊かな住宅街を形成しなければ、大阪の未来はありません。御堂筋も現在ビルの高さ制限がありますが、将来高層化された御堂筋も良いと思います。現在のように高層化を拒んで行くと御堂筋はますます活気のないストリートになって行くでしょう。パリ市内の高層化は厳しく、良質はオフィスが不足していてフランス、パリの経済は沈下状態にあります。御堂筋はパリのように経済的に沈下して行くと思います。御堂筋の活性化にはビルの高さ制限撤廃が必要です。大阪、東京の街に共通しているのが、街の店舗デザイン、ビル、カラー、看板、歩道、ストリートサイン、貧弱な住宅街＆家、マンションのデザインなどが欧米に比べ非常に遅れていることです。早急に大手デベロッパー、建築デザイナー、店舗デザイナー、ハウジングデベロッパー、デザイナーに欧米を超えるくらいのデザインの改善を大阪市が率先して警告＆改善を話し合いすべきです。日本の建築デザインのレベルは中進国より少し上くらいのレベルです。欧米よりかなり下です。恥ずかしい状態です。

多核放任型の意見

①まちの複雑性	・雑多な感じが大阪に合っていると思う。 ・まちづくりの様な複雑な事柄を本当の意味でコントロールするのであれば、強烈なリーダーシップをもつ人の出現が必要だと思うから。多様化の時代においてはコントロールではなく、自主的な活動を行える（進められる）土壌作りが受け入れられるのではないでしょうか。ただ、その土壌づくりは何なのかは難しいですが・・・。
②自発的なエネルギーを活かす	・市民活動はそれぞれのモチベーションがあって、基本的に利己的、自己満足を優先すべきである。無理に公共性を結びつけてエネルギーをそぐことはしたくない。 ・とにかくまちづくりをしたい人たちがやればよい。ただし、行政主導はこれからは、やめるべきだ。無駄な事業ばかりで、税金の無駄使いだ。

その他の意見

①組織のあり方	・まちのニーズや取組みのテーマを、市民の声や将来のあり方を行政や感度の良いコンサルタントが感知して活動のきっかけをつくり、市民・企業・NPO の活動を促し、行政はその支援に回るのがよい。つまり課題発見ときっかけづくりは行政が担う。ただし、市民・企業・NPO のなかにリーダーとなって頑張れる人がいない場合には、行政主導で取り組む必要があるが、その場合にも意識の高い市民や親身に考えてくれるコンサルタントと一緒に、取り組むべきである。市民・企業・NPO のなかにリーダーとなって頑張れる人がいる場合には、その人のやる気を活かし、行政やコンサルタントがその活動のサポーターとして支援側に回るのがよい。ただしみんなの声に耳を傾けられるリーダーであることが必要。 ・まちづくりの基本コンセプトとしてはそこに住む市民が主導であるべきと思うが、都心の場合の主要なステークホルダーが企業であることが多いので、企業なりにまちづくりに働きかけるというのはありだと思う。 ・多核連携は理想的ではあるが、実際には中立な立場でコーディネートする者が

	いないと機能しないような気がする。また、大きな方向性はやはり市が示さないといけないのではないか。 ・どのグループが何処でどんな活動をしているか、お互いの動きを知ることは重要。だから情報交換や話し合いはする。でもそれぞれの活動理念や目的が違うので、一緒にまちづくりを進めるのは無理があると思う。無理を通すと、情報や意見交換の場・機会すらも無くなってしまう可能性がある。
②行政に対して	・市の「バカ」が加われば、必ず街づくりは失敗する。市（ＯＢも含む）は絶対排除せねばならない。無責任、金銭感覚マヒ、土建業者とのゆ着等、最悪である。 ・本来は多核連携型が望ましい。少子高齢社会が現実となった今、まちづくりにおける参加セクターの多核連携化は、東京を除く地方都市においては、ごく常識的な社会的必然となりつつある。逆説的には、これら行為に抗う力の強い都市においては、衰退が顕著となる。大阪は、この意味における衰退都市の典型である。だれもが客観視できる顕著な社会現象が、都心地区・中之島における野宿者の増大で、この三年間大阪市は、ブルーテントに見てみぬふりを決め込み、水都・大阪という有名無実に金をつぎ込んでいる。海外、他都市からの旅人たちは、この陳腐に毎日、軽蔑のもとに大阪を後にしている・・・というのに。 ・都心でのまちづくりは、郊外住宅地などと比べて、より多数かつ多様な利害関係者（住民、地域商店街や繁華街、通勤・通学者、企業、医療、教育機関など）のまちづくりへの関心・主義主張を調整する機能が重要になってくると考えます。そのような役割は行政に期待されるでしょうが、「既に決定されていることについて、参加の事実をつくるためだけに市民や企業からの参加の場をもうける」といった事態を避ける（あるいは懸念を取り去る）ために、行政がまず「たたき台」を作成し、それについて話し合う場をもうけ、話し合いの結果が具体的なまちづくりの方向付け・実現活動に結びつくような仕組・方法が望ましいのではないかと思います。 ・企業や市民はよいアイデアと技術と勢いを持っていると思うが、まちづくりはボランティア的な面も大きいので、市など行政の協力なバックアップが重要であると思う。
③公共施設の維持管理	・園内に犬を飼ったホームレスの方が大きい声をたてます。何とかなりませんか？
④その他	・その地区の特性と実情による。